

【鹿児島県伊仙町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協同的な学びの実現～」（令和3年1月）等の内容並びにこれらに引き続く政府の議論も踏まえ、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等を通じて実現を目指す学びの姿として、本町では、グローバル化・ICTを活用した教育の充実を目標とし、教育の質やその効果が見られる中、高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協同しながら新しい価値を創造するなど、21世紀の社会を自ら主体的に学び、成長につなげる教育を展開する。

2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想に基づき、これまで同構想の実現に向け令和3年度に790台の児童生徒用タブレットを導入し、また学習系ネットワークの整備を行った。また、学びの実践の助力となるべく、学習ソフトとしてみんなの学習クラブ、navima、するーる373を導入してきた。結果としては、学校ごとや教職員ごとに活用に差があり、この差をどう解決していくかについては関係業者等と協議し、オンラインによる活用方法セミナー等の開催を検討する。

また、ICT利活用の支援については、財政的・人材的に非常に難しいため、行政職員が行っているが、人事異動やICTスキル不足等の要因により、支障がある。さらに、タブレット端末の当初の想定とは異なり、年月がたつたび、その容量不足と起動の重さ、管理者権限による制限モードの中での不具合の解消ができない、そして故障・破損等によるトラブルが日常的に発生し、予備機での運用等をしてきた。

しかし、物損保証が3年までとなっており、その後は非常に高額な保険に入るか、自然故障のみで対応するしかなく、財政的に自然故障の保険では、修理に別途費用がかかる状態となっている。

しかし、当町では、令和6年度途中から、1人1台端末を活用し、オンライン英会話レッスンを開始した。これは、海外の先生と児童生徒が1対1で10数分間、英会話のレッスンをするもので、これを開始した際には、学習系ネットワークの通信速度とタブレット端末に不具合が多くあった。

このため、学習系ネットワークの光回線を増強し、ネットワークの安定性に努めたが、端末自体が経年劣化と性能不足等により、完全な改善には至っていない。

3. 1人1台端末の利活用方策

当町においては、導入したWindows端末の、従来からある諸問題が、採用端末の性能の低さに起因し、現在の状態になっているものとする。当初の想定では、基本オンライン上にデータが保存されるため、端末の性能にはよらないという話もあったと聞いているが、実際とは異なる状態となっている。

このため、2nd GIGA端末の導入においては、Windowsの1ランク上のタブレット端末への更新を行う予定である。

また国が行う学習者用デジタル教科書（英語、算数・数学）の利活用を伴い、教職員のスキルアップと教職員間の情報共有を促し、紙の教科書にはないデジタル教科書ならではのメリットを生かした効果的な授業の展開を図っていきたい。